

低侵襲で専門性の高い治療を提供

北海道札幌市において、低侵襲治療を中心に提供しているイムス札幌消化器中央総合病院。一般的な疾患から、高い専門性が必要とされるものまで、幅広く対応をしている。

肝胆膵領域の疾患治療に同院が力を入れて、現在の体制となつたのはここ数年のことだ。「札幌市西区において、消化器の治療を専門的に行ってある施設、特に外科と内科両方とも専門性が高い施設はあまりなかった」ということがこの体制を目指した背景にあ

ります」と同院の丹野誠志院長は語る。丹野院長自ら診察も行つており、早期診断に努めている。胆膵領域の診断には、CTやMRIよりも解像度が高い超音波内視鏡を用いているほか、病理診断もEUS-FNA（超音波内視鏡下穿刺吸引組織診）で行う事が可能だ。「確実に組織を取ることができた技術も、他の医療機関に受け取らないでしょう」

なお、近年ではIPMN（膵管内乳頭状粘液性腫瘍）といふ良性の腫瘍が、膵臓がんの早期診断につながるのではないかと注目されており、同院ではこれを集中的にフォロー

アップしているという。

肝臓がんに対する外科的治療と内科的治療

同院で肝臓がんをはじめ、さまざまな肝疾患に対応しているのが肝臓病センターだ。

肝臓がんは初期症状に乏しく、毎年多くの人が命を落としているものの、肝炎がそれを引き起こす大きなリスクだと判明している。そのため、同セ

ンターでは検査で肝炎の患者を見つけ、直接作用型の抗ウイルス薬などで治療し、肝臓がんに至るのを防ぐ努力をしている。

同センターでの肝臓がんの

主な治療は、ラジオ波焼灼術や肝動脈塞栓化学療法、肝動注療法を行う医療機関は限られています」と、肝臓病センター長の葛西和博医師は語る。

こうした治療を行い、場合によっては外科と協力して手術にあたっている。その際には、ある程度症状が進行している患者でも手術を諦めないという。「当院は基本的に断らない病院ですので、ステージ

長の葛西和博医師は語る。

一般的な疾患から難易度の高いものまで多くの肝胆膵患者に幅広く対応

イムス札幌消化器中央総合病院
医療法人社団明生会



(右)外科副部長 田中 栄一
たなか・えいいち●医学博士、1990年、北海道大学医学部卒業。日本外科学会認定外科専門医、日本消化器外科学会認定消化器外科専門医ほか。

(中央)院長 丹野 誠志
たんの・せいし●医学博士、1990年、旭川医科大学医学部卒業。日本内科学会認定結合内科専門医、日本消化器病学会認定消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医ほか。

(左)副院長兼肝臓病センター長 葛西 和博
かさい・かずひろ●医学博士、1994年、岩手医科大学医学部卒業。日本肝臓学会認定肝臓専門医、日本消化器病学会認定消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医ほか。



超音波内視鏡を用いて、疾患の早期診断に努めている

外科と内科で密に情報を共有

が進んだ患者さんが多いのです。そういう患者さんでも、肝機能が良くて、手術が可能であれば行っています」。また、手術と組み合わせた包括的な治療も行っている。例えば、肝臓に大きな腫瘍と小さな腫瘍がある症例に対しても、患者者の要望も踏まえて大きな腫瘍だけを手術で切除し、残りを内科的な治療で対応することもあるという。

同院での手術は、低侵襲な



高難度な手術を負担の少ない腹腔鏡で多く行っている



肝がんに対して行うラジオ波焼灼術

腹腔鏡下手術が選択されることが多い。外科の中心である田中栄一医師は、腹腔鏡手術のエキスパートであるとともに、肝胆膵領域の手術経験が豊富だ。「肝胆膵の手術はこれまで広く多くの経験を積んできました。適切な手術を提供できるよう日夜気を使っています」と田中医師。そう語るよう肝胆膵すべてに対応が可能で、そのうえで血管再建を伴う肝胆膵手術などの高難度な手術も行っている。また、週に一度の外科と内科のカンファレンスで密に情報を

共有して、治療の方針などを決定しているという。「専門領域が異なることによる理解の差を、カンファレンスで埋めて共有するのです。その積み重ねにより、チームの判断や力量が上がってくるのだと思います」(田中医師)。

現在の体制になつたことにより、同院では合併症や基礎疾患などを持つリスクの高い患者にも幅広く対応することが可能になった。今後も同院は、札幌市において、専門性の高い医療を提供していく。

取材／鈴木健太